

保育を通じたコミュニティ形成 ～まちのこども園と渋谷区庁舎で学んだこと～

東京大学教育学部総合教育科学科教育心理学コース3年 橋本佳奈

自己紹介・動機

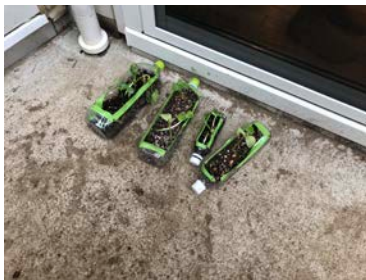
私は昨年度の授業で知ったレッジョ・エミリア（以下RE）の教育に大きな感銘を受けた。その時から、共通理念を持つまちの保育園・まちのこども園について関心があったため、このプログラムは良い機会になるだろうと思った。

また私自身が山形県出身であり、田舎の地元とは異なる都会の保育についての造詣を深めることもできるだろうと思って参加した。

まちのこども園 代々木上原園への訪問から

住宅街の中にあるこちらの園では、「地域に根ざす」イメージがより強く感じられた。実際に、家族同士の関わりや近所に住む方々からの手助け・協力があるようだった。

雨が降り出して他の子どもが屋内に帰った後も園庭でどろんこ遊びを続ける子どもたちを先生が優しく見守っておられる様子から、この園で子どもの意志が重視されていることを実感した。



←子どもたちが育てている何かの芽。

アトリエ。たくさんの作品が飾られている。 →



まちのこども園 代々木公園園への訪問から

園舎がとても広々としていることが印象的だった。REにも共通するアトリエには、アトリエスタが見守る中で、子どもたちが好きなものを使って好きなことをできる環境が整っていた。木を絵の具で染めて喜ぶ子どもたちや、公園の自然に合わせてテーマが「緑」から「黄」「オレンジ」に変わっていくという話が心に残っている。

公園にあるため、そこに遊びに来る人々や売店の方、警備員さんとの交流が多いようだった。



←松ぼっくりなどの素材を集めていた。



園の外観。 →

渋谷区庁舎への訪問から

地方に比べて課題である待機児童の多さや保育の質の差に力を入れて対応しているとのことだった。特に、区の予算で園長や保育士向けの講座を開いていることに驚いた。渋谷区にある企業と協力するなど区ならではの取り組みも聞くことができた。さらにLINEによる子育て情報の配信など、時代に合わせた施策を行っている。

また、「かぞくのアトリエ」では親子が一緒に参加できるプログラムやこども食堂を用意している。都会において、このような形で家庭を支える試みがあることに感心させられた。

まとめ

都会には都会で、地方とはまた異なるコミュニティが形成されていることを知った。まちのこども園はコミュニティの中心としての役割を果たしているのだろう。もちろんコミュニティは地域によって異なる。今回、代々木公園園では公園という大勢に開かれた場所であるがゆえのにぎやかな交流、代々木上原園では通う子どもの家族や近くに住む住人との深い交流があるように感じた。今まで、窮屈で寂しい都会よりも、のびのびとした田舎で育てた方が子どもにとって良いだろうと思っていたが、良い意味でその考えが大きく覆されることになった。どちらが良い悪いの話ではなく、それぞれその場所に合わせた保育があり、それぞれのコミュニティが作られるのだろう。

また、渋谷区庁舎の訪問を通して、他の区や地域への関心が湧いた。他の区ではどのような子育て政策を行っているのかに興味を持った。渋谷区は都内でも特に子育てに力を入れている区であるというが、他と比較してそれを確かめてみたい。自分の育ってきた山形市の子育て支援についても知っておきたいと思う。

REへの興味から参加を決めた今回のプログラムであったが、得たものは非常に大きかった。これからも代々木公園園へのCCLCには通うつもりでいるし、小竹向原や六本木、吉祥寺のまちの保育園も機会があれば訪れてみたい。また、保育と行政との関わりについて、より深い学びを探究してみたい。